

ホルスタイン種における簡易的な採卵プログラムの確立

○三嶋溪太¹⁾・塚田葉¹⁾・望月香甫²⁾・白井雄介³⁾・田村洋次²⁾・菊島一人⁴⁾・神藤学⁴⁾・内田雄祐¹⁾

¹⁾ 山梨県畜産酪農技術センター・²⁾ 山梨県農政部畜産課・³⁾ 山梨県東部家畜保健衛生所・⁴⁾ 山梨県西部家畜保健衛生所

背景・目的

背景

- ・子牛生産では受精卵移植が有効
- ・ホルスタイン種からの採卵には
卵胞刺激ホルモン (FSH) の8回の投与が必要
- ⇒**牛の保定やホルモン接種など作業が煩雑、牛にストレス負荷**

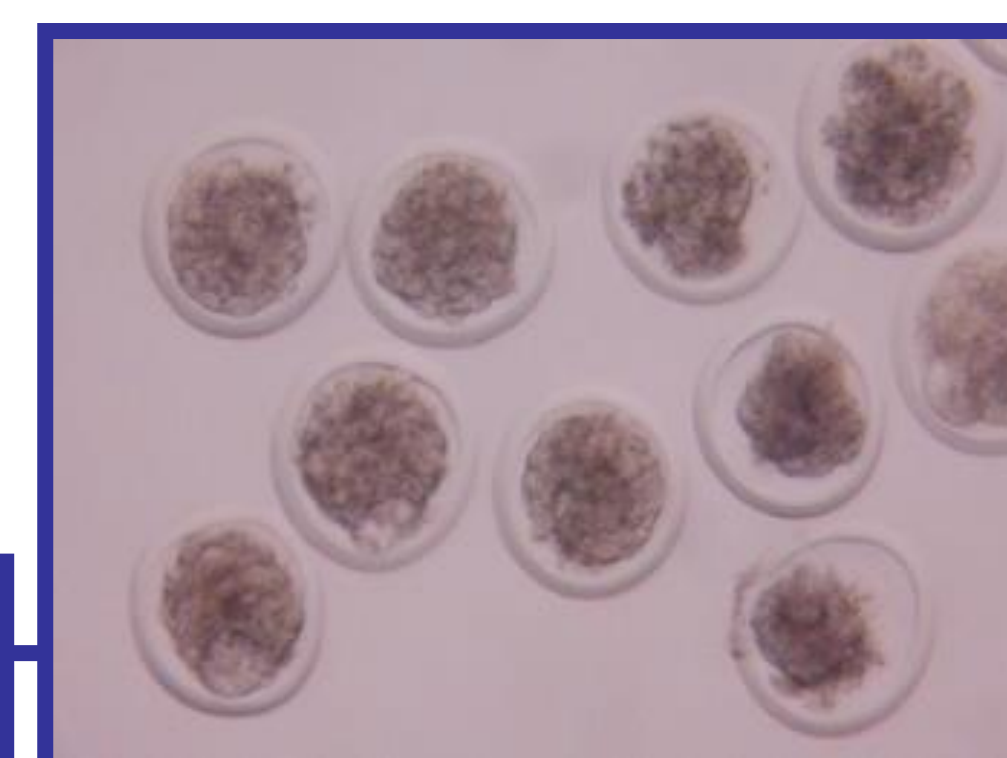
投与風景



目的

簡易的な採卵プログラム確立を目的に、従来のFSH 8回投与法に対し**投与回数を減らした場合**の採卵成績を比較した。

受精卵



方法・結果

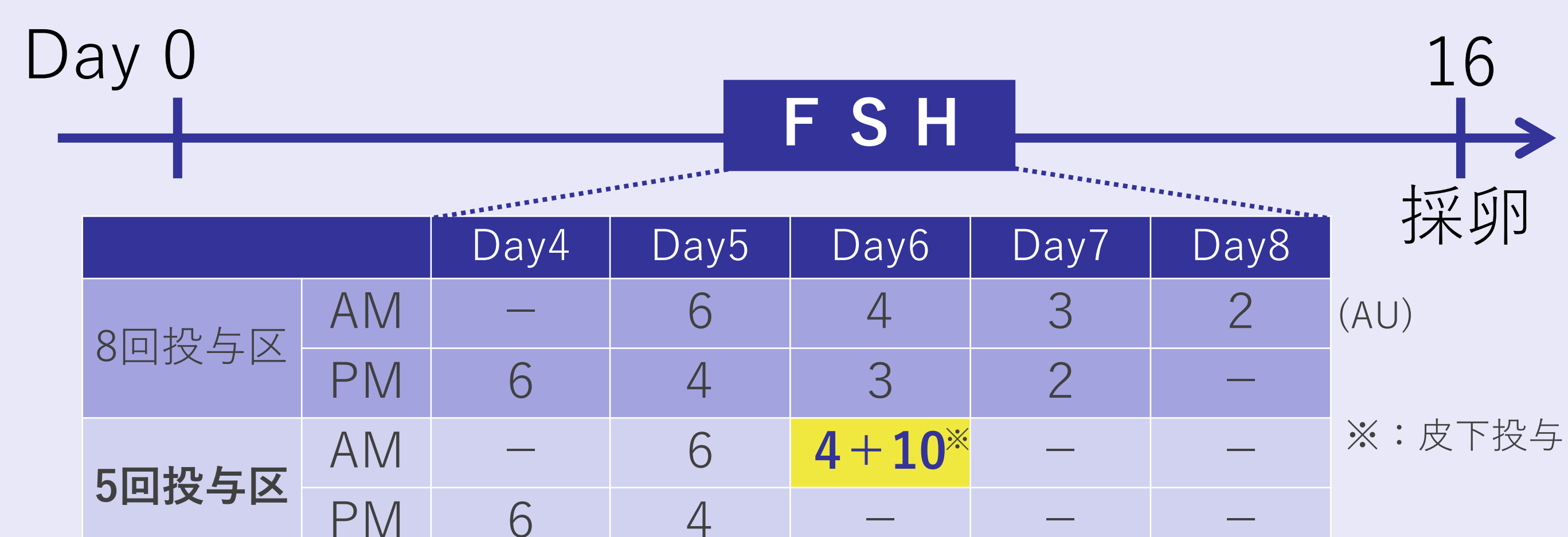
方法①

作業者の労力と牛のストレスを半減させるため従来の半分の**4回投与法を検討**

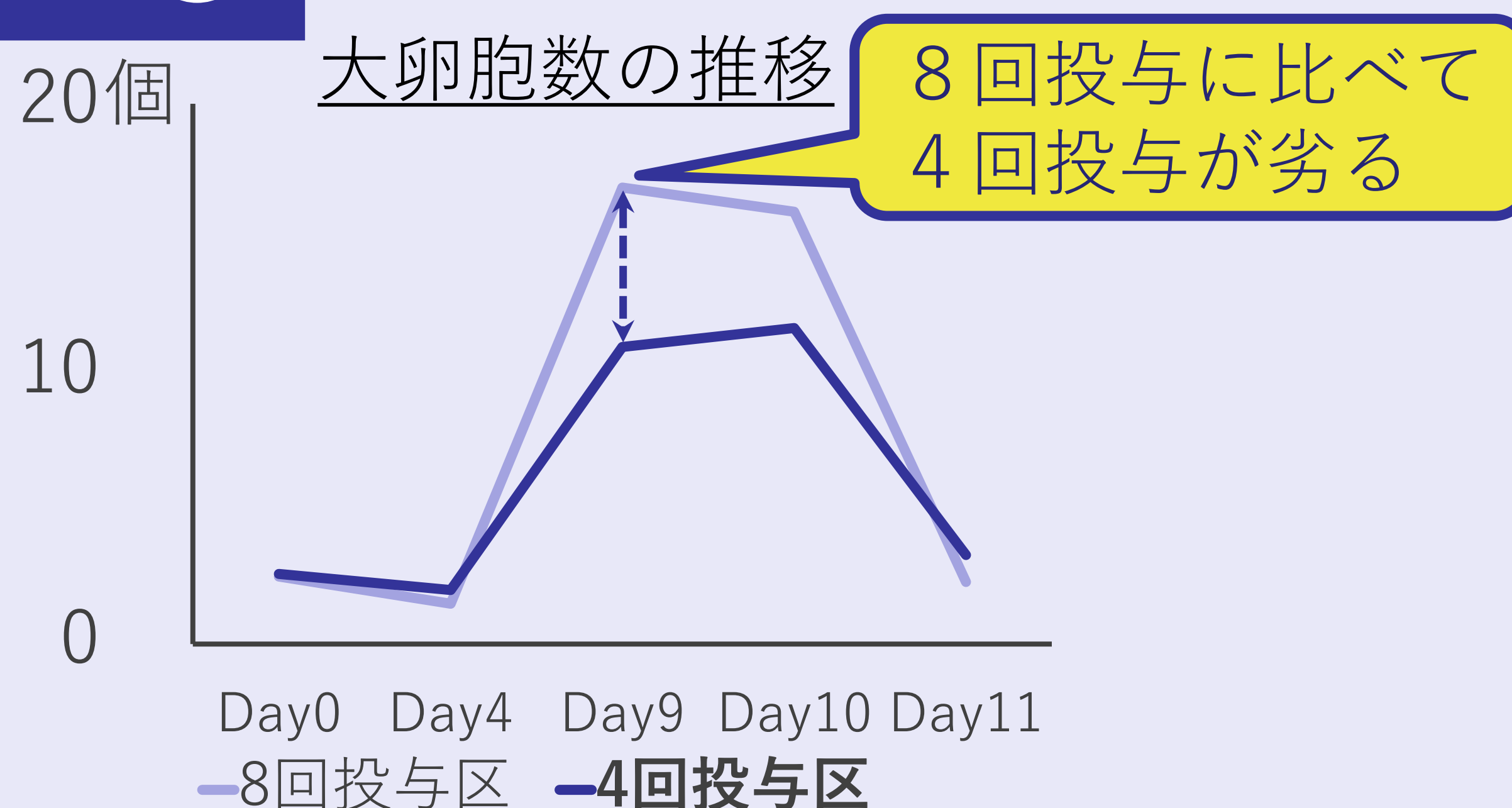


方法②

十分な卵胞発育を促すため、FSHの持続効果が期待できる皮下投与を取り入れた**5回投与法を検討**



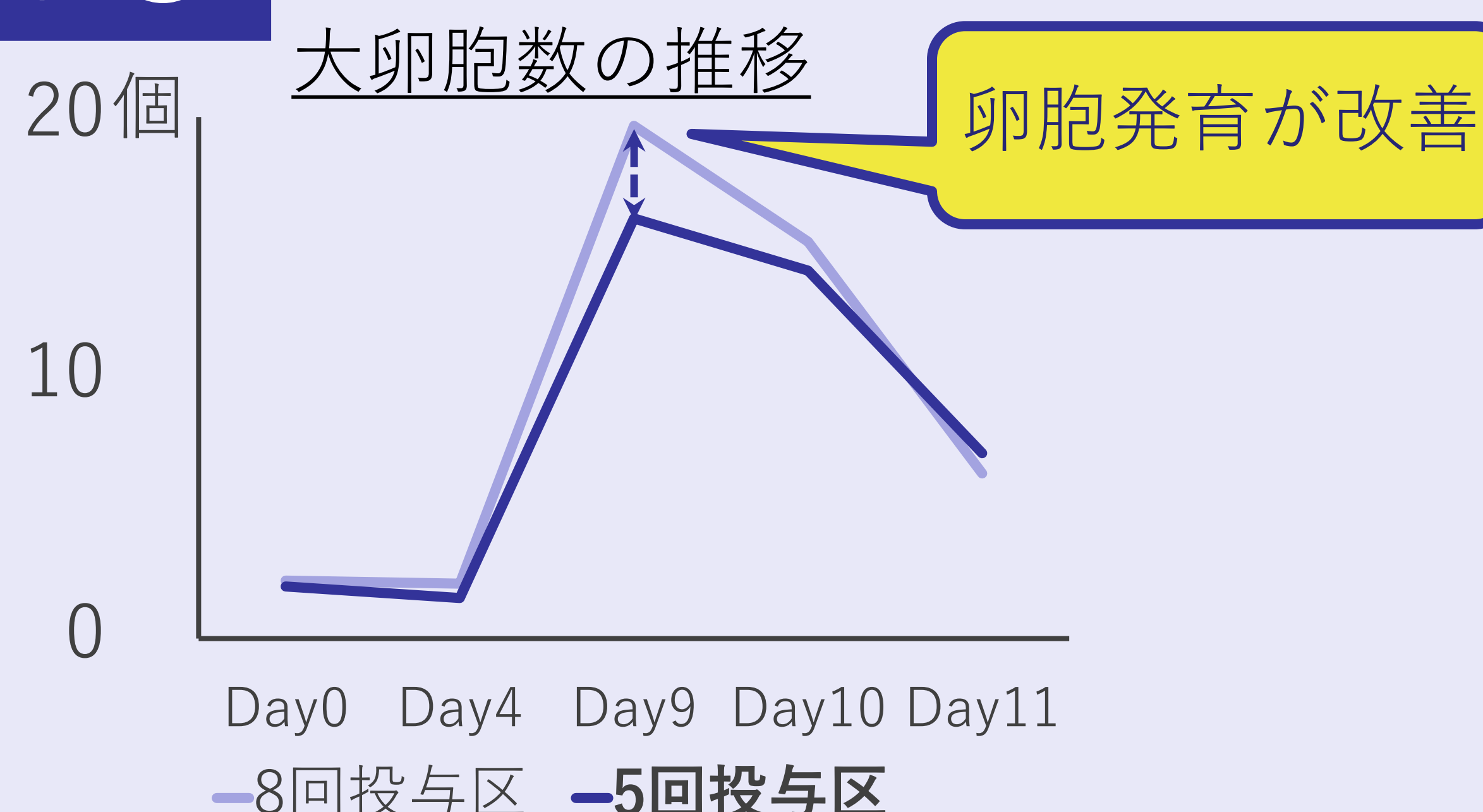
結果①



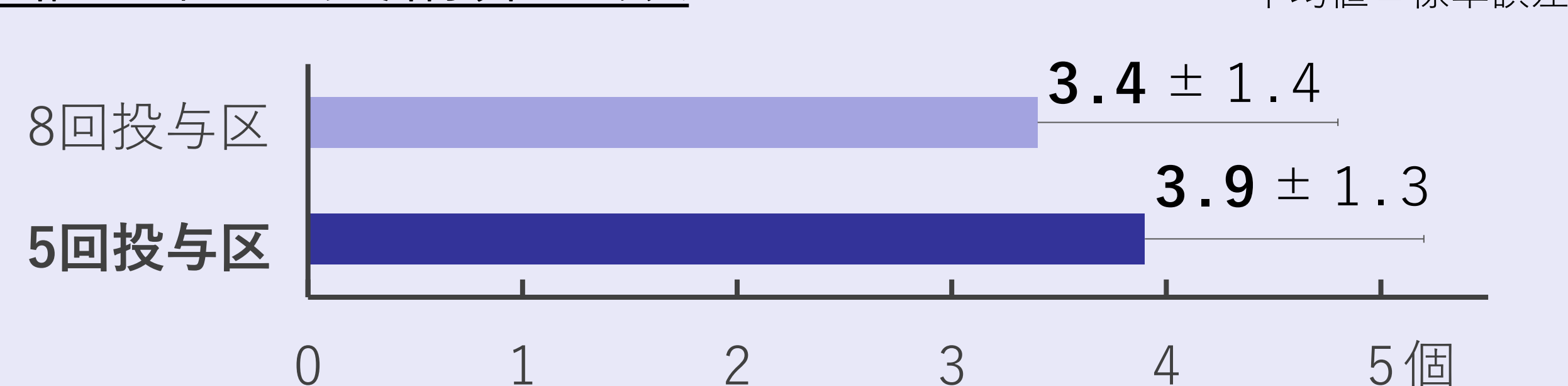
・**4回投与では卵胞発育が不十分**

⇒**投与方法を再検討**

結果②



移植可能な受精卵の数



FSH投与を8回→5回に削減
 ⇒**乳用牛の改良促進が期待**

共同研究機関

栃木畜研、神奈川畜技、岐阜畜研、愛知畜セ、島根畜技、岡山畜研、福岡畜試、(独)家畜改良セ